



JR東日本グループで発生する不当労働行為を是正させ、 働く者が安全で安心して働ける健全な会社をめざす特別決議(案)

2025年9月19日、JR東労組大宮地本(以下、大宮地本)とハラスメントを受けた組合員はJR東日本による団結権の侵害に対し、さいたま地方裁判所へ損害賠償請求を提訴した。また同日、大宮地本はJR東日本による不誠実団交に対し、埼玉県労働委員会へ不当労働行為救済申立てを行った。大宮地本はこの第三者機関の活用目的は「組合に入りたい方が会社を気にすることなく、東労組に加入することができる会社をめざす」と明らかにした。

JR東労組では、労使共同宣言が失効して以降、不当労働行為が横行し組合員の脱退が加速した。不当労働行為は、18春闘の大敗北を受け止めた後も止むことはなかった。以降、JR東労組は7年もの間、各地で発生する不当労働行為に対し精力的に団体交渉を行い、会社に是正を求めてきた。しかし、不当労働行為は止まず管理職登用などの組合差別が常態化し、会社の目を気にしてJR東労組に加入できない社員が多くつくり出されている。

2018年以降、大宮地本では9回にもわたって不当労働行為に関する団体交渉を行い、会社は一部不適切であった事象を認めたものの、不当労働行為は止むことなく、経営幹部による不当労働行為に対しては、「経営に携わる方々はそういった指示をするといったことはない」「調査も行わない」という回答で団体交渉による解決は図れなかった。よって、不当労働行為を是正し健全な会社をつくるために、大宮地本の仲間が第三者機関の活用を決起した。

JR東労組千葉地本(以下、千葉地本)は大宮地本と連帯し、不当労働行為を許さないたたかいを全組合員との総対話でつくりだしていく決意である。

JR東日本では、不当労働行為に留まらず、「ハラスメント」「事故」「事象」「不祥事」も各地で多発し、働く者が安全で安心して働ける風通しの良い健全な職場とは程遠い状況である。

千葉地本でも、JRバス関東の職場で組合員が休職に追い込まれるハラスメントが発生した。当該の管理者は、人権無視の暴言などを浴びせうえに、飲酒状態で回送バスの私的利用も発覚した。また運輸職場の社友会では、総務・法務戦略部が作成した購入券制度の変更の情報が、公表される前に社友会内で情報共有されていることが発覚した。情報漏洩はコンプライアンス違反であり、社友会への情報提供は、社員差別であり不当労働行為である。

「被害者が加害者にされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」では、組合員A君に暴行を行った管理者が、組合員A君に対し損害賠償を求め反訴するという信じがたい事態となった。絶対に許すことは出来ない！

秋田地本管内の統括センターでは、管理者による過半数代表者選挙における買収行為と捉えられかねない事態が発覚した。しかも、対象となる社員名簿には組合員の名前に取り消し線が引かれる社員差別が行われており、組合加入による社員差別は不当労働行為である。

1月に相次いで発生した、山手線や京浜東北線での停電や常磐線上野駅での架線切断に伴う運転見合わせにより、国交省関東運輸局から警告書が出された。東京地本管内のある統括センターでは、運転再開前に「はこびユン」による日本酒を事故当日に販売するお知らせが社員共有され、「安全や安心よりも稼ぐことが優先され非常識だ」という指摘がされている。さらに2月2日に、京葉線八丁堀駅エスカレーターからの出火、2月8日には宇都宮線栗橋～間々田間でまたもや架線切断が発生した。驚くことに交換基準値の8.7mmをはるかに下回る4.1mmにまですり減っていたことが明らかになった。JR東労組はグループ理念に「安全」の文字が削除され、利益が優先される危機感について警鐘を鳴らしてきた中での事故・事象であり、安全に関する設備投資や、要員不足が影響していることは、グループ会社を含め全社的な問題である。連続する事象に対して、渡利副社長が国交省に呼び出され謝罪をしている最中、喜勢社長が成田山新勝寺で豆まきをしている様子が報道された。あまりにも大きくかけ離れた職場との感覚に危機感を持ち、労働組合としてのチェック機能を果たすべく、職場議論を通じて、私たちは組織強化・拡大をもって傲慢な経営姿勢に立ち向かおう！

私たちは、発生する事象を正確に掴み、組合員・社員と共有し、働く者が安全で安心して働ける健全な会社をめざし、決起する！そのために、第三者機関の活用を手段とし、不当労働行為を是正させ、「2026JR総連春闘」「施策の検証」「過半数代表者選挙」等の諸課題を全組合員と共にたたかい抜き、千葉地本1000名組織をめざして組織拡大に邁進していくものである！

以上、決議する。

2026年2月17日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部
第46回定期地本委員会